

第18回 タバコと死の五重奏研究会

謹啓

時下、先生におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。
さて、この度「第18回 タバコと死の五重奏研究会」を下記の通り開催いたします。
ご多用とは存じますが万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

日時：平成30年 6月8日（金）19:00～20:30

会場：一般社団法人北九州市小倉医師会 講堂

〒802-0076 北九州市小倉北区中島一丁目19-17

TEL：093-551-3181

19:00～【特別講演】

座長 産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室
教授 大和 浩 先生

霧ヶ丘つだ病院

院長 津田 徹 先生

『日本のタバコ対策の現状と
東京都医師会が目指す真の健康寿命延伸策』
—2020オリ・パラ開催を如何に有効に活かすか—

演者 東京都医師会会長
おざき内科循環器科クリニック
院長 尾崎 治夫先生

*日本禁煙学会認定5単位、禁煙サポーター単位を取得いただけます。

代表世話人	大和 浩	(産業医科大学健康開発科学)
世話人	太崎 博美	(北九州市立八幡病院)
	津田 徹	(霧ヶ丘つだ病院)
	中村 正	(中村正内科循環器科クリニック)
	森田 恵美子	(萩原中央病院)
	吉井 千春	(産業医科大学若松病院)

主催：ノバルティスファーマ(株)
後援：小倉医師会 私的病院会

東京都医師会長 尾崎 治夫先生



皆様もご存知のとおり、日本のタバコ対策は諸外国と比較し、比べることが恥ずかしくなるくらいに遅れております。未だ過去の遺物がごとく残っている「たばこ事業法」をはじめ、タバコ販売を経済成長の道具として捉え、タバコ税による税収入を増やすことを目的としてきた我が国の歴史的な流れは、現在も専売公社から日本たばこ産業(JT)へと引き継がれています。

このように、我が国にはタバコを健康問題として考えることができなかつた不幸な歴史があるため、世界保健機関(WHO)の国際条約「タバコ規制枠組み条約(FCTC)」に批准しているにもかかわらず、しっかりと条約を遵守できていない状況が続いているのです。

がん対策の必要性は勿論のこと、脳卒中、心臓病、COPDなどの予防、また健康寿命延伸の重要性を誰もが口にするようになった現在でも、タバコ対策は常に後回しにされてきました。寝たきりの原因となる多くの疾患に喫煙が深く関わっていることは、世界中で出されている学術研究データを見るまでもなく、少しでもタバコ関連の資料を紐解けば明白です。しかし、国や都のがん対策や各種健康政策を見ても、タバコ対策は目立つところに記載されておりません。

多くの国民はタバコのことに関心であるか、関心があってもメディアを通じて正しい情報を知らされることなく、未だに多くの会社や飲食店で、非喫煙者が受動喫煙を受けている状況が放置されています。

これからの禁煙推進活動は今までのように、一部の方々だけで行うマニアックな活動ではいけないと考えております。この大会を機に、多くの医療関係者や都民、そして心ある議員の先生方など、多くの方々が連携して参加できる活動にして行きましょう。

代表世話人 産業医科大学健康開発科学 大和浩先生

東京都は2020年の東京オリンピックまでに受動喫煙対策をこれまでの開催地並みにする必要があり、東京都医師会はその中核となり活躍しています。尾崎会長の「なぜ、東京都医師会はタバコ対策とフレイル対策を最重要視しているのか」という切り口は、ぜひ多くの医療関係者に聞いて頂きたいと思います。尾崎会長の「熱い」講演を生で聴いて頂くことが、これからの北九州市の健康づくり推進に必要です。是非、ご参加をお願いいたします。

**小倉医師会の駐車場は限りがございますので、
自家用車でのお越しはご遠慮おねがいたします**

